

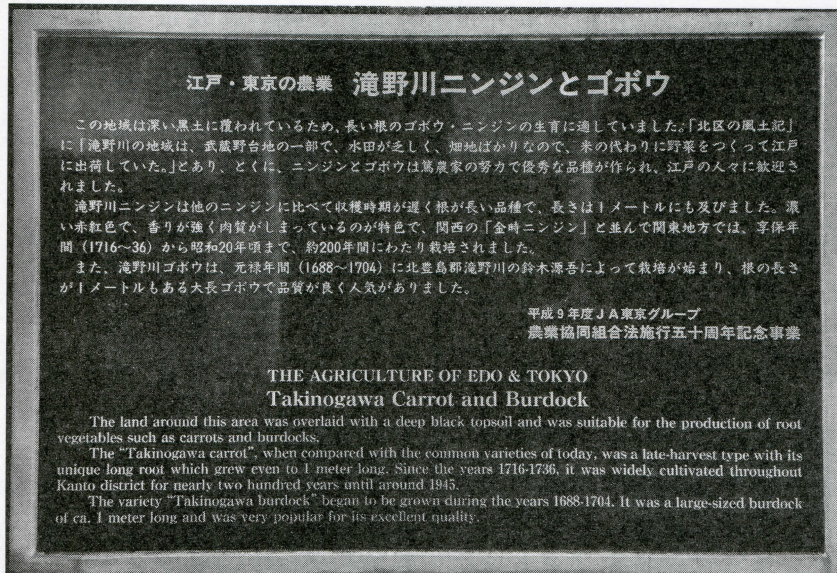
江戸東京野菜の魅力

講師 大竹道茂氏

報告 有馬純雄

江戸東京・伝統野菜研究会代表の大竹道茂氏を講師に迎え、「江戸東京野菜の魅力」とのテーマでお話を聞いた。練馬大根、小松菜等、東京や日本各地で栽培され食卓に乗る伝統野菜について、それぞれの特徴や現状について触れられた。しかし話の中心は当然、北区滝野川である。江戸東京野菜を語るには、瀧野川人參、瀧野川牛蒡は欠かせない存在。江戸時代にまで遡るその歴史的経緯と衰退の理由や背景、また長さ約1mにも及ぶ形状や栽培と収穫に伴う特徴、味わいや料理(きんぴらごぼう、煮物等)の用途等を説明され、認識を新たにした。

大竹氏は江戸東京野菜の栽培指導も実際にされておられる。著作の「江戸東京野菜」には「一九八九年よりJA東京中央会にて江戸東京野菜の復活に取り組み、都内の江戸東京農業の説明板(50カ所)設置に尽力。二〇〇八年より(公財)



農協法施行 50 周年記念 滝野川牛蒡と人參の説明板

- 東京都農林水産振興財団の食育アドバイザー」と紹介されている。この江戸東京野菜の説明板については北区滝野川西区民センターの玄関脇に「瀧野川牛蒡、人參」のもの、また巣鴨地蔵通り商店街入口前の真性寺角に「種屋街道」のものがあり、設置の経緯や苦心談を話された。
- 昨年、瀧野川八幡神社宮司の藤井氏の下、神社氏子の方々の尽力により瀧野川人參、瀧野川牛蒡が境内で育てられ、その栽培の指導に当たられたとのこと。昨年三月末の種蒔までの境内の場所の選定や栽培方法の検討等の準備
- 作業を振返られ、その後の生育や九月末の収穫作業にも助言されておられる。
- 以下、何点か、興味深くお聞きしたお話を記すと、
- 東京都内の11区にいわゆる農地法による農地が現存し、北区には荒川土手近くの浮間二丁目に良く管理された農地がある。
- 滝野川一丁目37番地(都電西ヶ原四丁目電停近く)に牛蒡坂があり、グーグルマップでは検索できるが、その場所にはなんの標識や説明板もない。北区の資料には宅地化されるまでは、牛蒡畑が広がっていたとある。
- 西ヶ原小学校の体育館の建つ敷地には、昔、川の水を引いた牛蒡の洗い場があった。これは私の父より聞いた話で、父は同校の第四代校長だったから。
- 牛蒡は北欧やシベリアが原産地で、日本には平安時代に中国から薬用植物としてもたらされた。瀧野川牛蒡は江戸元禄時代に瀧野川村鈴木源吾により栽培が始まった。
- 亡くなられた女性北区議会議員の黒田さんが尽力され、当時の紅葉中学で栽培が始められた。



2022年3月 滝野川八幡神社境内 牛蒡の種まき
この後塩ビ管を板で囲った。

○滝野川三丁目のもみじ小学校を訪ねた折、大きく伸びきった牛蒡を見つけて、小学生に伝えると大変驚いていた。

○東京で瀧野川牛蒡を栽培されている農家があるが、収穫には約1mの牛蒡の先端まで土を掘り起こさねばならなく大変で、機

械を使っている。

○太くて真ん中にスがあり、そこに詰め物をして調理する京野菜の堀川牛蒡があるが、もとは瀧野川牛蒡だと京都の先生に教えて頂いた。

○人参のルーツは現在のアフガニスタンで、シルクロードを通り

長い人参、反対にオスマントルコを通りヨーロッパに着いたのが短い人参。昭和50年代にファミレスにより短い人参が日本に入り市場を占めた。

○徳川吉宗が日本全国から小石川薬種園に集めた植物の中に瀧野川人参の元があり、年の暮に収穫され牛蒡とともに、正月の食材として重宝されていた。しかし牛蒡同様に長



八幡神社の2022年9月収穫直後、塩ビ管を裁断して出てきた滝野川牛蒡
水不足のため、細根が沢山出ている。

く収穫に手間がかかり衰退していったが、川崎市麻生区万福寺地域の農家が栽培を続け、住宅を求め移りすんだ周辺の方々がそれを知り、栽培が復活し「万福寺大長人参」としている。

○「品川カブ」は、今では品川神社に関わる方々が育てておられるが、もとは瀧野川カブと伝えられる。瀧野川八幡神社の牛蒡、人参の栽培と同時に瀧野川カブも栽培され、牛蒡、人参、カブの汁物として参拝客に振る舞われた。

○駒形ドジョウのドジョウ鍋には瀧野川牛蒡のササガキが欠かせないし、北区稲付には瀧野川ごぼうビールあり、その特性が活かされている。

講演をお聞きし、江戸東京野菜は、江戸幕府開闢を発端とする食文化、料理文化を携え背負う生きた遺産であると思った。大量生産、大量消費される野菜は、我々が生きるためのものとしたら、江戸東京野菜は、知識と感性の栄養ではなからうか。